

# ポートフォリオ 2021 - 2022

**PORTFOLIO**

しょう しゅう き  
XIAO ZHOUQI

電話: 080-7175-9788

メール: [fxiaozhouqi@gmail.com](mailto:fxiaozhouqi@gmail.com)

A thermal comfort study has been carried out in outdoor urban spaces in Singapore. The field study was carried out from August 2010 to May 2011. There were 2059 respondents from 13

21-DESIGN

Rendering works



## 基本情報

氏名: 肖周祺 (XIAO ZHOUQI)  
 性別: 男  
 出身地: 中国広州  
 生年月日: 1993年11月29日  
 趣味: 映画、旅行、撮影  
 電話: 080-7175-9788  
 メール: fxiaozhouqi@gmail.com

## 学歴・経験

2012.09-2016.06 | 中国地質大学 (武漢) 工学学士  
 情報技術 (Computer Science and Technology)  
 2016.09-2019.06 | 広州大学 工程修士  
 建築学 (Architectural Design and Theory)  
 2019.10-2021.03 | 早稲田文化館 日本語科  
 2021.04- | 東京デザイナー学院 建築デザイン科

## インターンシップ

2018.03-2018.06 | 広州大学建築設計研究院有限公司  
 2018.09-2018.12 | 広東南雅建築工事設計有限公司



## 受賞

2019 | 2019年国家奨学金 National scholarship in 2019  
 2018 | 「碧桂園杯」南広東村 (整備) 計画設計大会 広東省二等賞

## スキル

### 言語能力:

日本語 (N1)、中国語、英語

### ソフト:

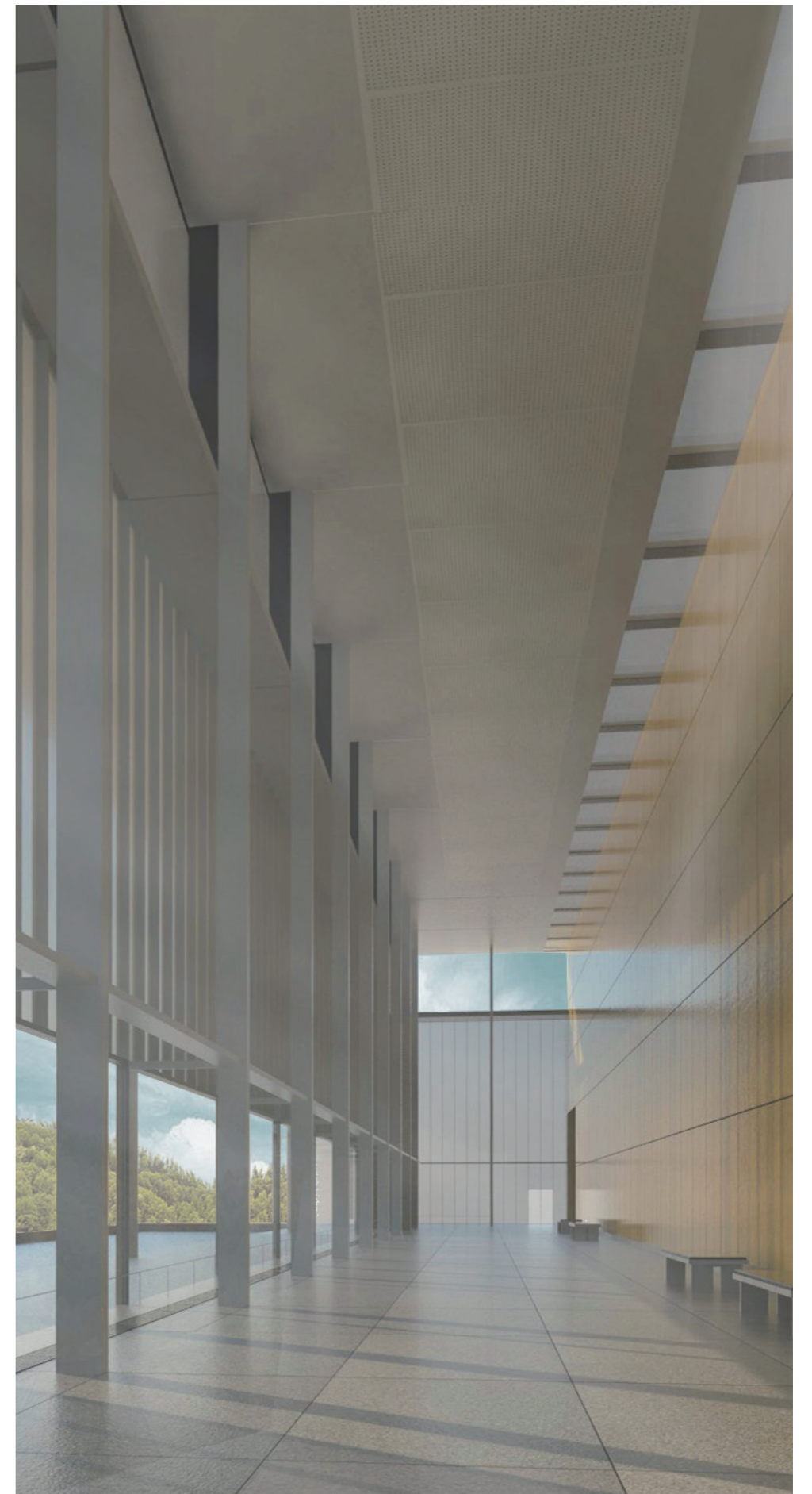
Office	Word PowerPoint Excel
2D	AutoCAD Vectorworks
3D modelling	Sketchup Rhinoceros
image	Photoshop Illustrator InDesign

# CATALOGUE

## 東京デザイナー学院 設計課題

指導先生：竹田和行、齋藤直紀

課題 1 「都市の隙間に屋根をかける」	都心のオアシス .....	01
課題 2 「都市の住宅」	二重ボックス宅 .....	09
課題 3 「地方住宅のリノベーション」	伸びた縁側 .....	17



Rendering works

# 都心のオアシス

## 屋根下の新たな都市の風景



この歴史が持っている神保町における新しい都市の公共休憩空間が作り出そうと思う。ここはオアシスのような美しく快適な休憩空間であり、敷地の周囲の市民や学生たちを引きつけられると考えた。それで、屋根の下で人々が様々な活動を発生し、都市における新しい風景が生まれた。

屋根の下に本を読んだり、交流したり、休憩したりできる空間

## ■ 敷地調査

### 神保町

設計敷地は神保町古書街である。神保町は明治時代以降大学生の街であり、学生や研究者が読む新刊・古書の書店が軒を連ねた。また食欲旺盛な学生の胃袋を支える飲食店、喫茶店、劇場などが併せて立ち並ぶ街だったのだ。そこに出版社をはじめとする新刊書店、古書店、出版関連の会社が多く、「本の街・神保町」という愛称が誕生した。

### 交通

商業神保町の北は西神田、東北は猿樂町に接し、東は神田駿河台、東南は神田小川町、南通神田錦町に臨んでいる。東西に向かう靖国は南北に白山通と町域中心を通る。ここには東京メトロ半蔵門線神保町駅と三田線神保町駅と都営新宿線神保町駅があった。神保町の周りには明治大学、法政大学、日本大学、専修大学、東京医科歯科大学、順天堂大学、駿台予備校、などの教育機関がある。

## ■ 問題の発見

① 敷地は都心の密集したオフィスビルにあったが、調査により、この町の休憩空間はほとんどなく、周囲の緑化は少ないことが分かった。したがって、緑化がある休憩スペースを作りたい。

② 神保町における古書店の客は主に高齢者で、周りには大学がたくさんあるのに、大学生が来ない。したがって、若いを引きつけ、この街に活力をもたらす場所を作り出したい。

### 現場写真



緑と休める場所が少ない



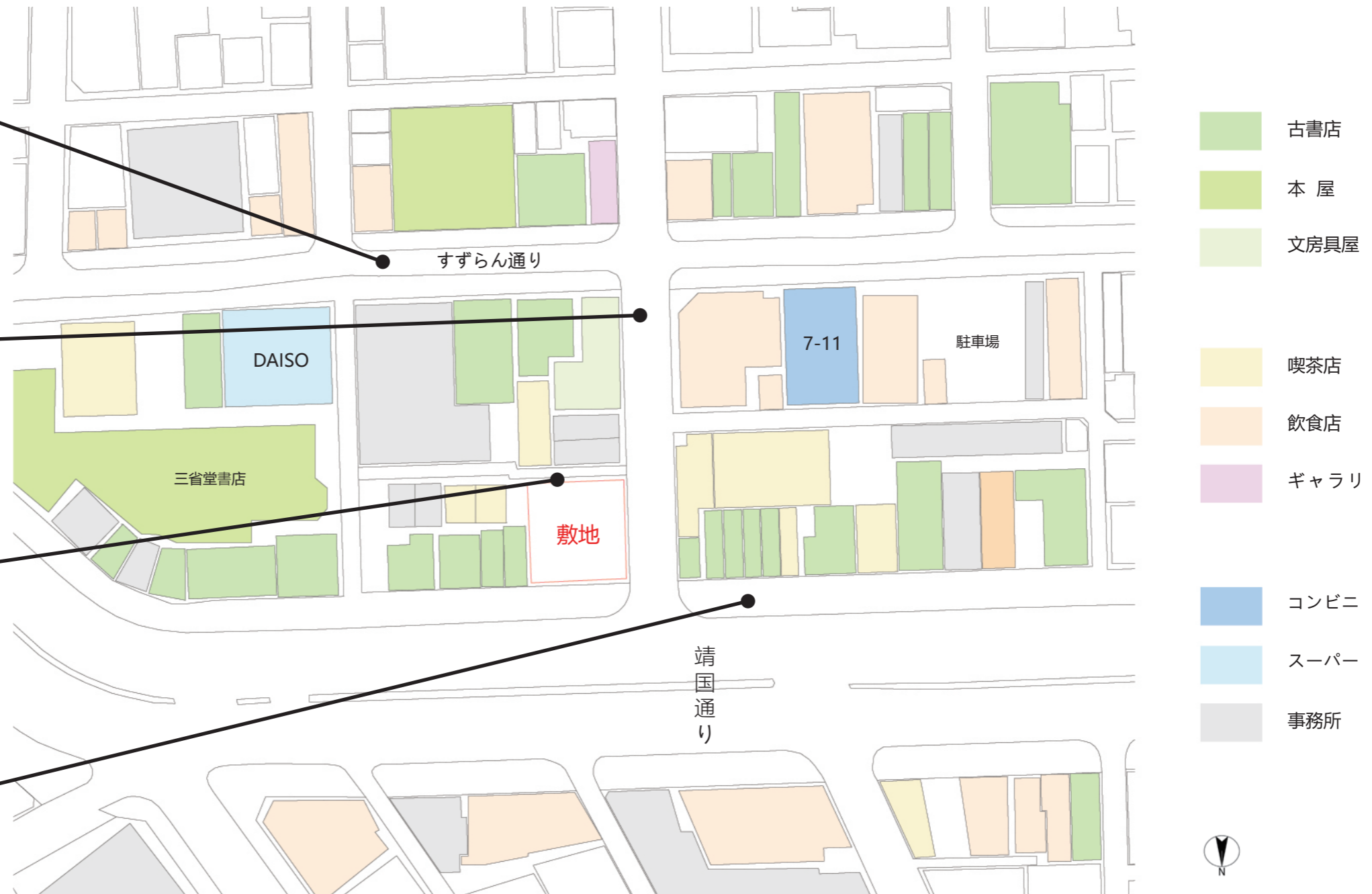
道路は4メートルぐらいの広さで、歩く人は多くないだ。道の両側の建物の高さは普通2-6階だ。



裏の通りは狭く、日当たりが悪い



通り沿いに古書店がたくさんあります。書店には主に老人たちと大学生たちがいった。

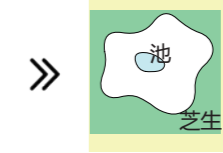
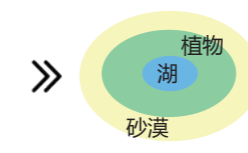


## ■ コンセプト

このプロジェクトのコンセプトはオアシスのであった。オアシスは砂漠中で環境が快適な場所であり、オアシスの平面的な組み立ては、真ん中は湖で、回りの外は砂漠で、この二つの間は緑だ。人間たちはその緑エリアに暮らせる。この提案はオアシスの組み立てを活用し、真ん中は池で、外は都市の道で、間は芝とベンチである。そうすると、市民たちが快適な利用できる場所を作り出す。



オアシス



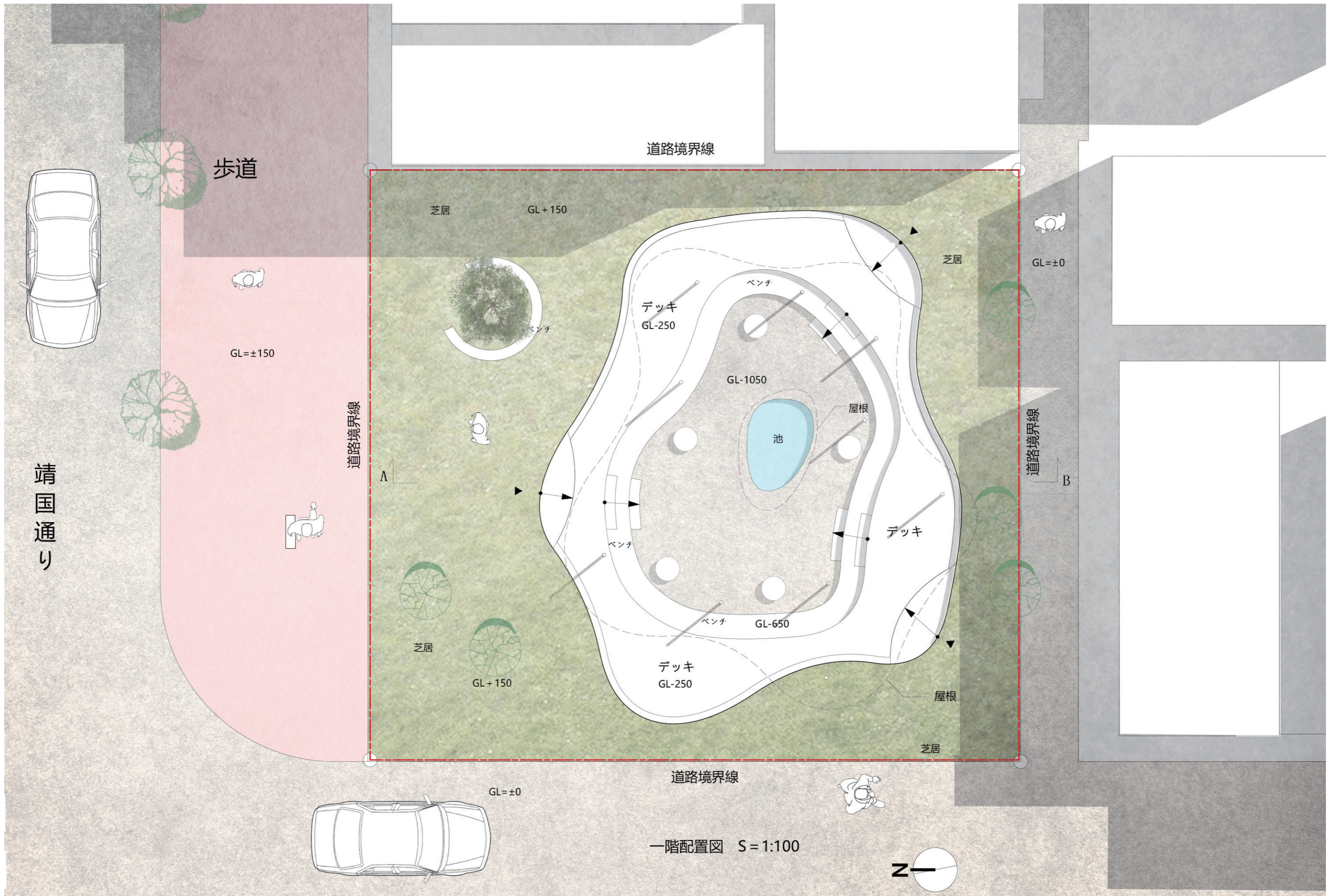
道路

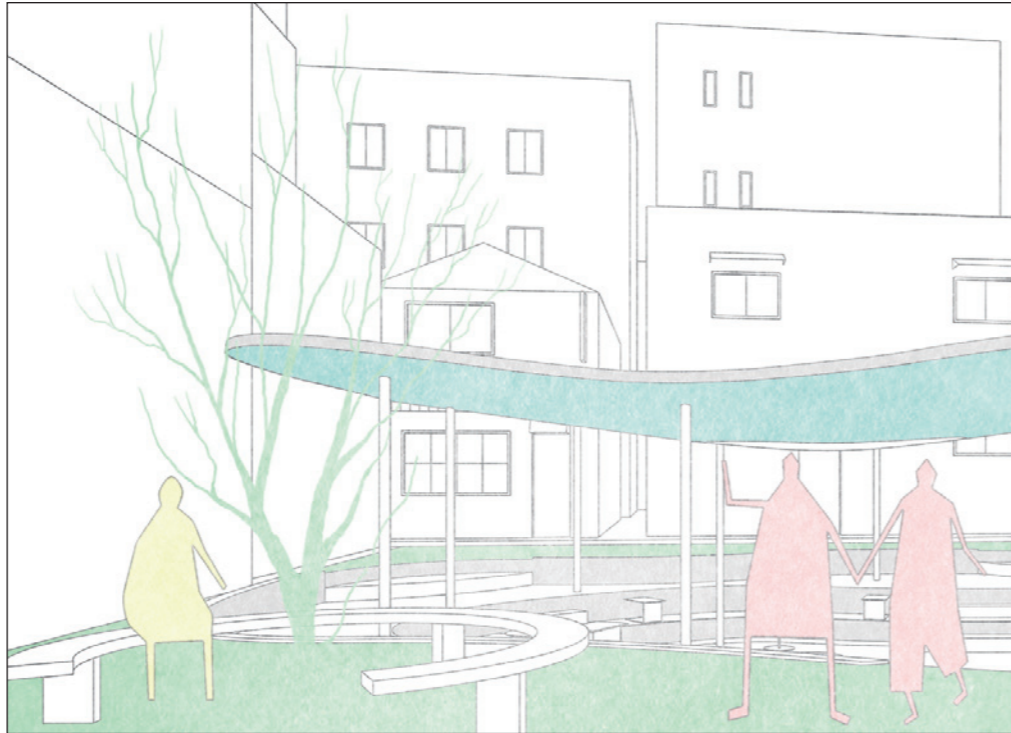
道路



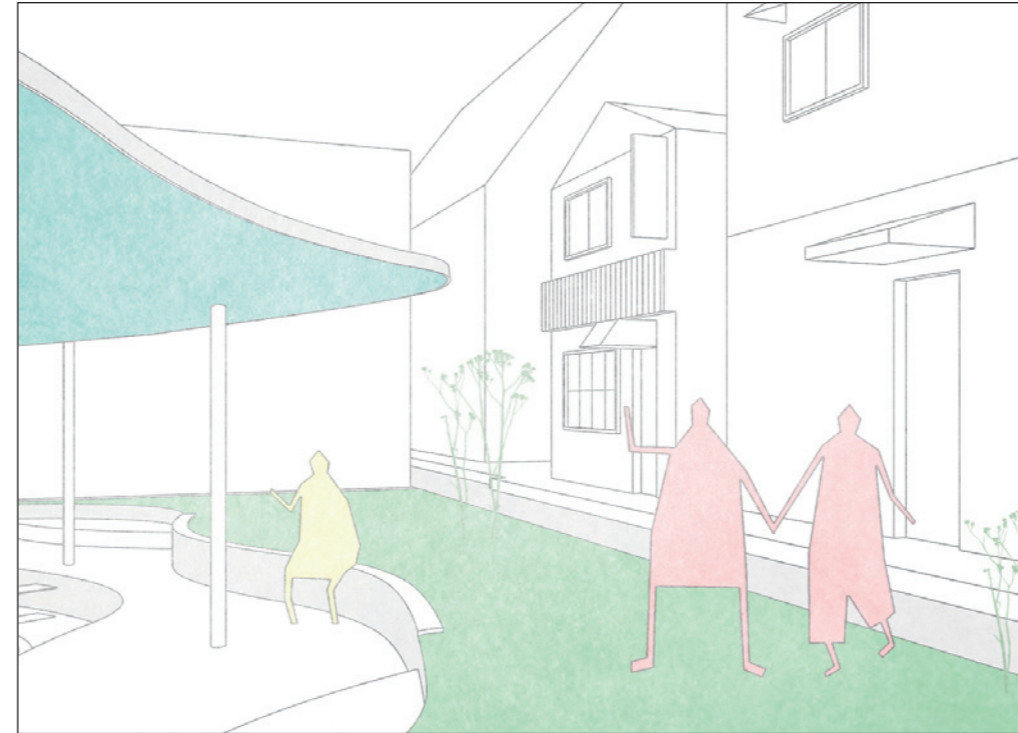
鳥瞰図

■ 平面計画





歩道から見ると、屋根とを通して裏道のカフェが見える



もともと暗くて狭い裏道が広がって、空間感が変わった

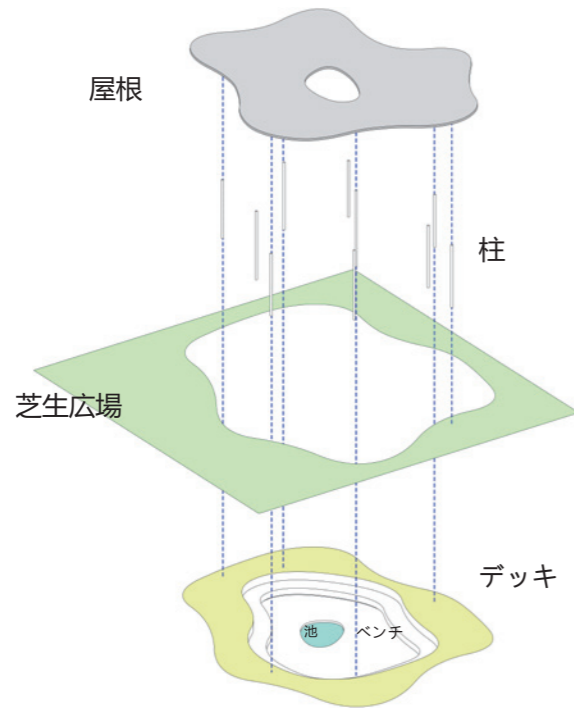


屋根の高さが低くして、親しみを感じながら、街の空間を変えた



屋根の真ん中の穴は、太陽の光と風を透過させ、快適な半屋外空間を創造することができる



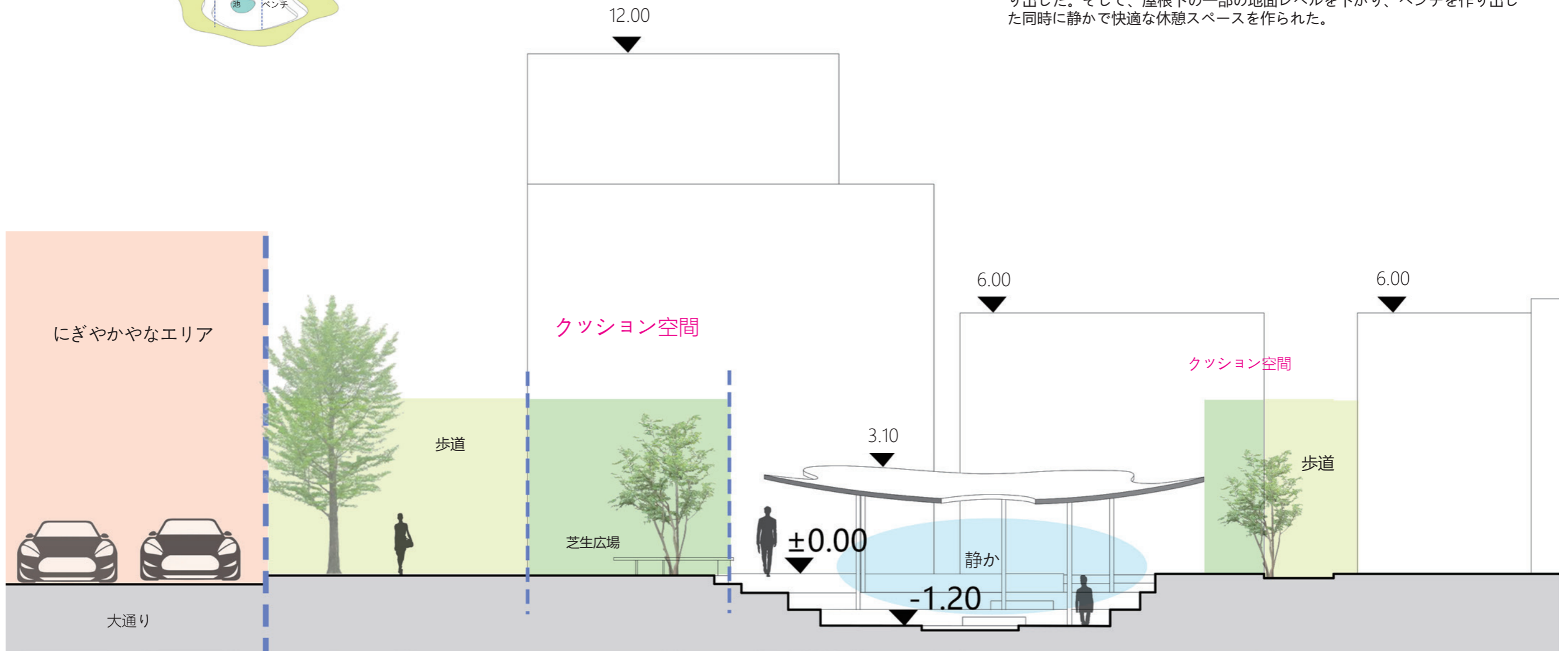


### ■ 建物の構成

コンクリートの屋根は9本の細い鋼柱で支えられており、屋根は軽く上に置いて、空に漂っているようだ。屋根の下は地面のレベルの変化によるベンチで、休憩の公共空間を提供することができる。

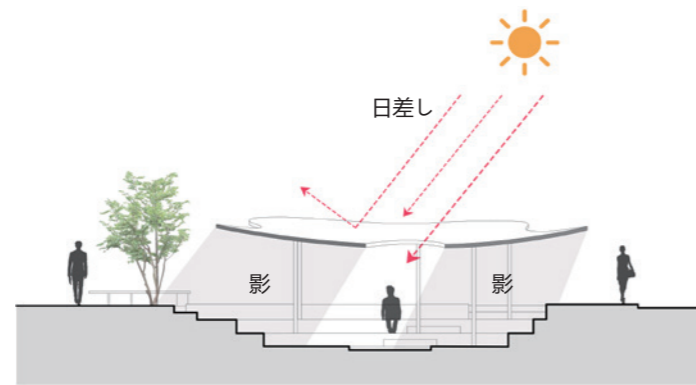
### ■ 屋根と道路の関係

敷地の左側は大通りと歩道だ。この左の部分は都市の中に騒がしい部分だと考えているので、建物の前に芝生広場や植物を配置し、クッション空間を作り出した。そして、屋根下の一部の地面レベルを下がり、ベンチを作り出した同時に静かで快適な休憩スペースを作られた。



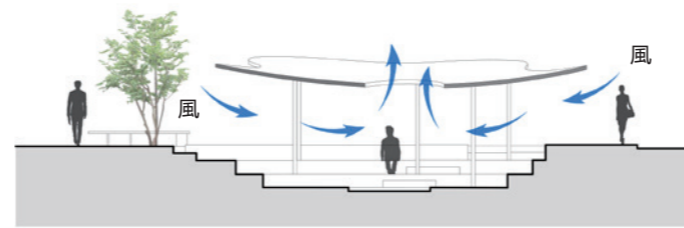
A-B 断面図 S=1: 100

## ■ 建築の分析



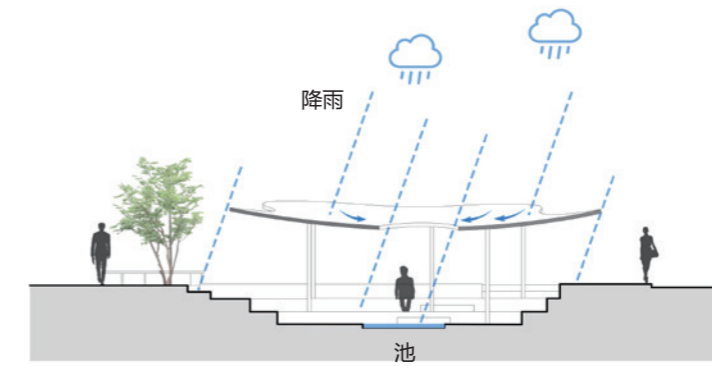
① 日照分析

大屋根なので、夏の日差しを避け、大きな影の空間が生じられた。したがって、快適な半外部の場所をつくりだせる。



② 通風分析

この建物は開放的であり、壁がなく、風が自由に通ることができる。



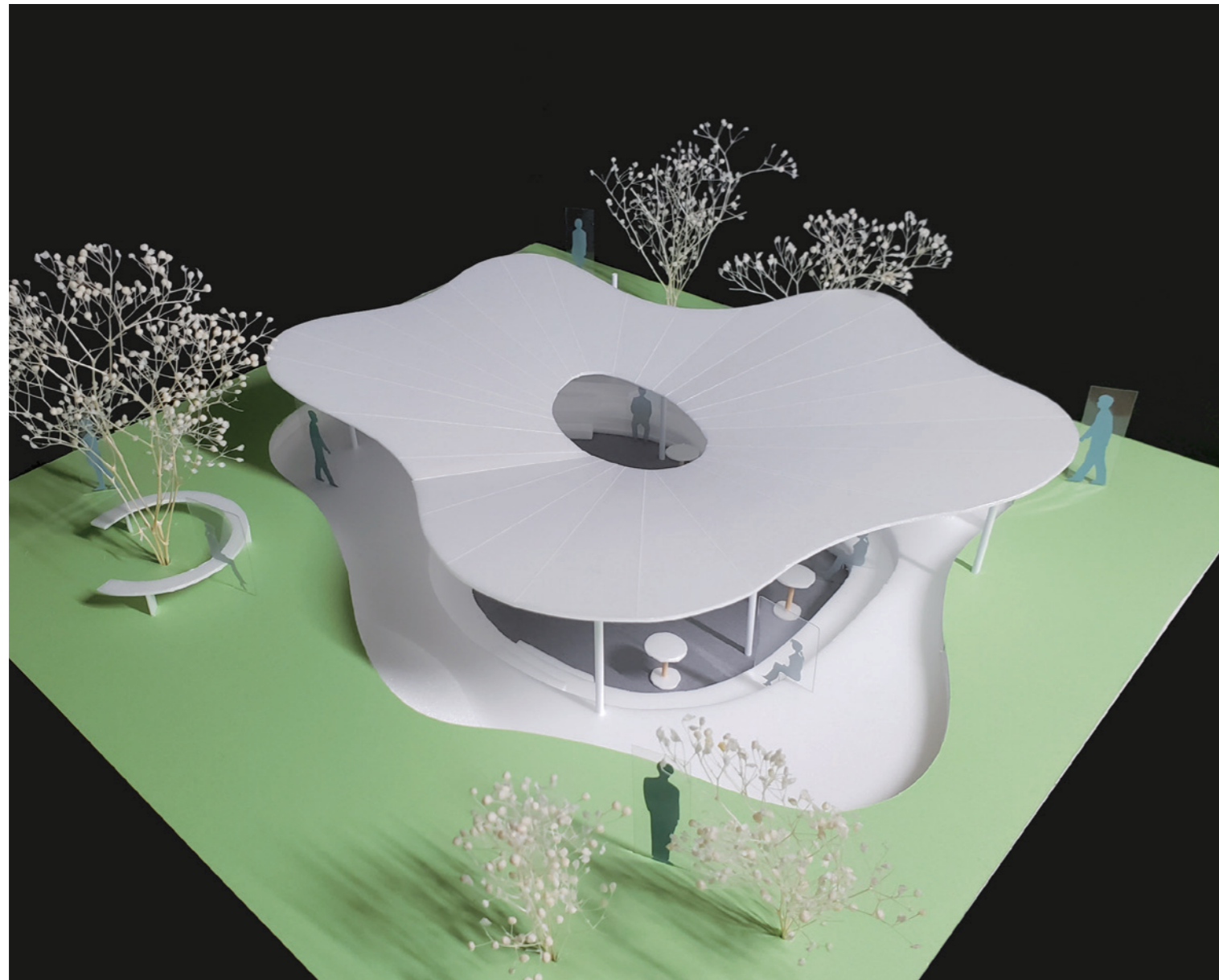
③ 降雨分析

日本には雨の多い国ですが、この大屋根は降雨を防ぐこともできる。また皿のような曲面の大屋根によって降雨が自然に流れ、池に集まることもできる。



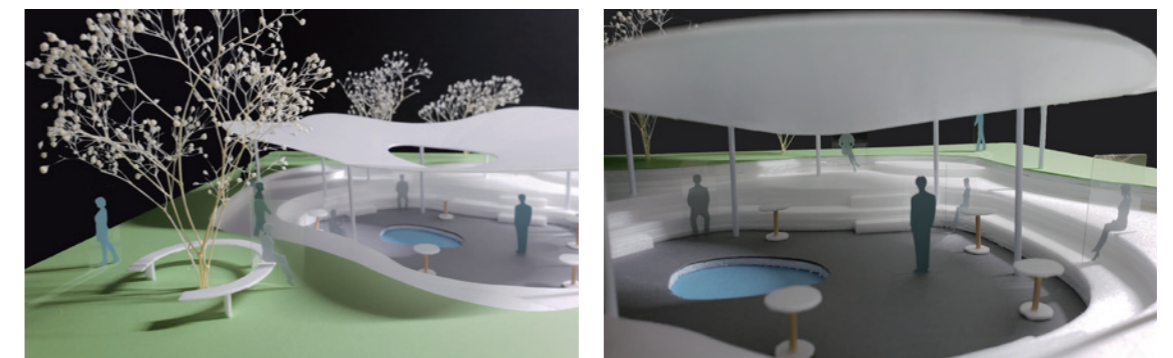
北立面図 S=1: 200

## ■ 模型写真



屋根によってオアシスには本を読んだり、交流したり、休憩できる場所で、人々が様々な活動をし、都市における新しい風景が生まれた。

調査による敷地は建物密集地で、さらに周りには二階建て古い建物がたくさんあって。そして、この場所を尊敬するために、建物の高さを抑えることにした。また屋根のエッジは柔軟であり、自然のようなかたちによって敷地周辺の建物と調和されると考えた。

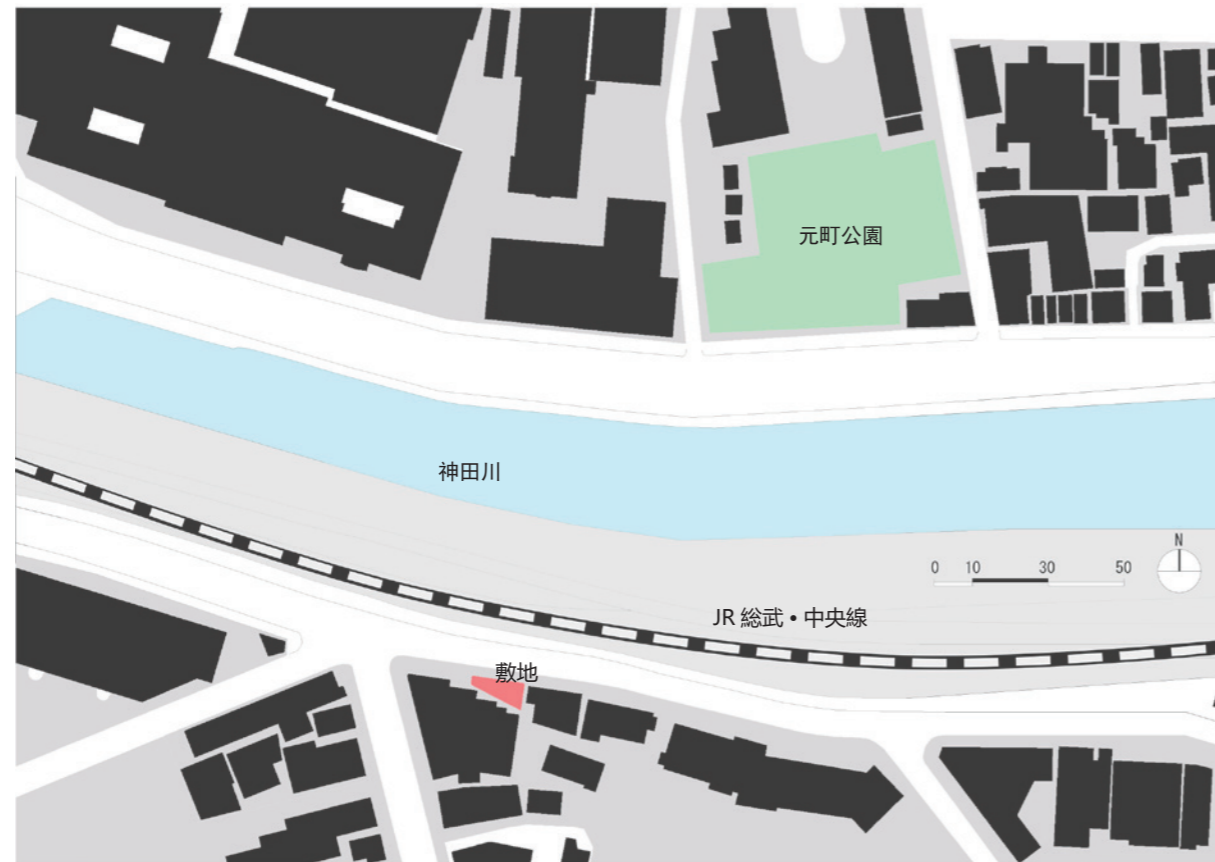




二重ボックス宅

## 敷地調査

今回の住宅設計敷地は千代田区の水道橋駅近くにあり、駅から歩く5分ほどであり、交通が非常に便利だ。それに敷地の北側は神田川に面し、美しい風景があった。下の写真とおり、敷地の周辺には豊かな緑化があり、この住宅は周りとの関係が重要だ。



配置図 S= 1: 2000



元町公園と電車

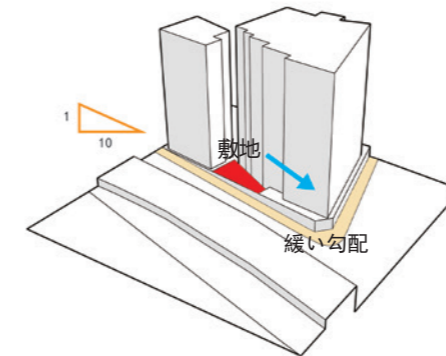


敷地現状



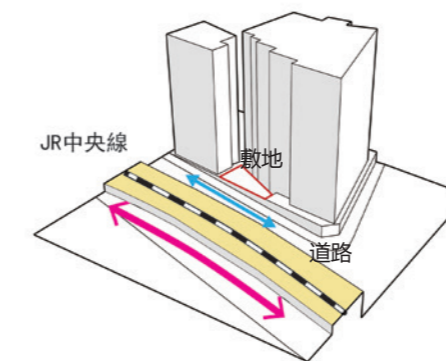
神田川の景色

## 敷地分析



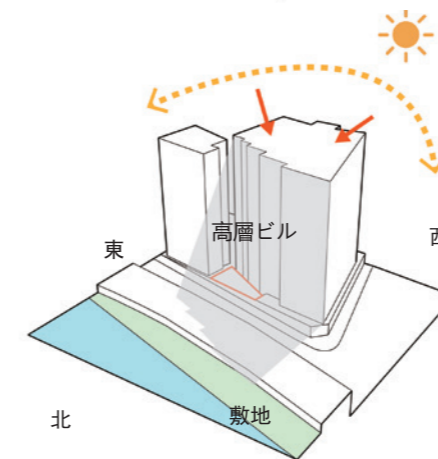
### ① 地形分析

まず、敷地は大体台形であった。敷地面積が非常に小さいのはその一つ特徴だ。緩い勾配にあった敷地内には高低差があるので、そのような特徴も活かしたいと思う。



### ② 交通分析

敷地の北側に道路があり、道路との関係を慎重に決める必要があった。また、道路の反対側に電車線もあり、その騒音問題は解決しなければならない問題だと思う。

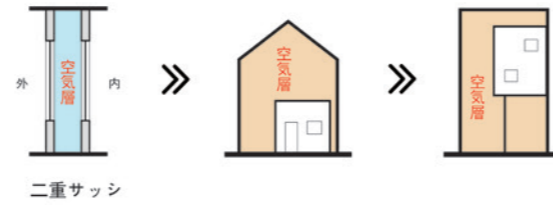


### ③ 日照分析

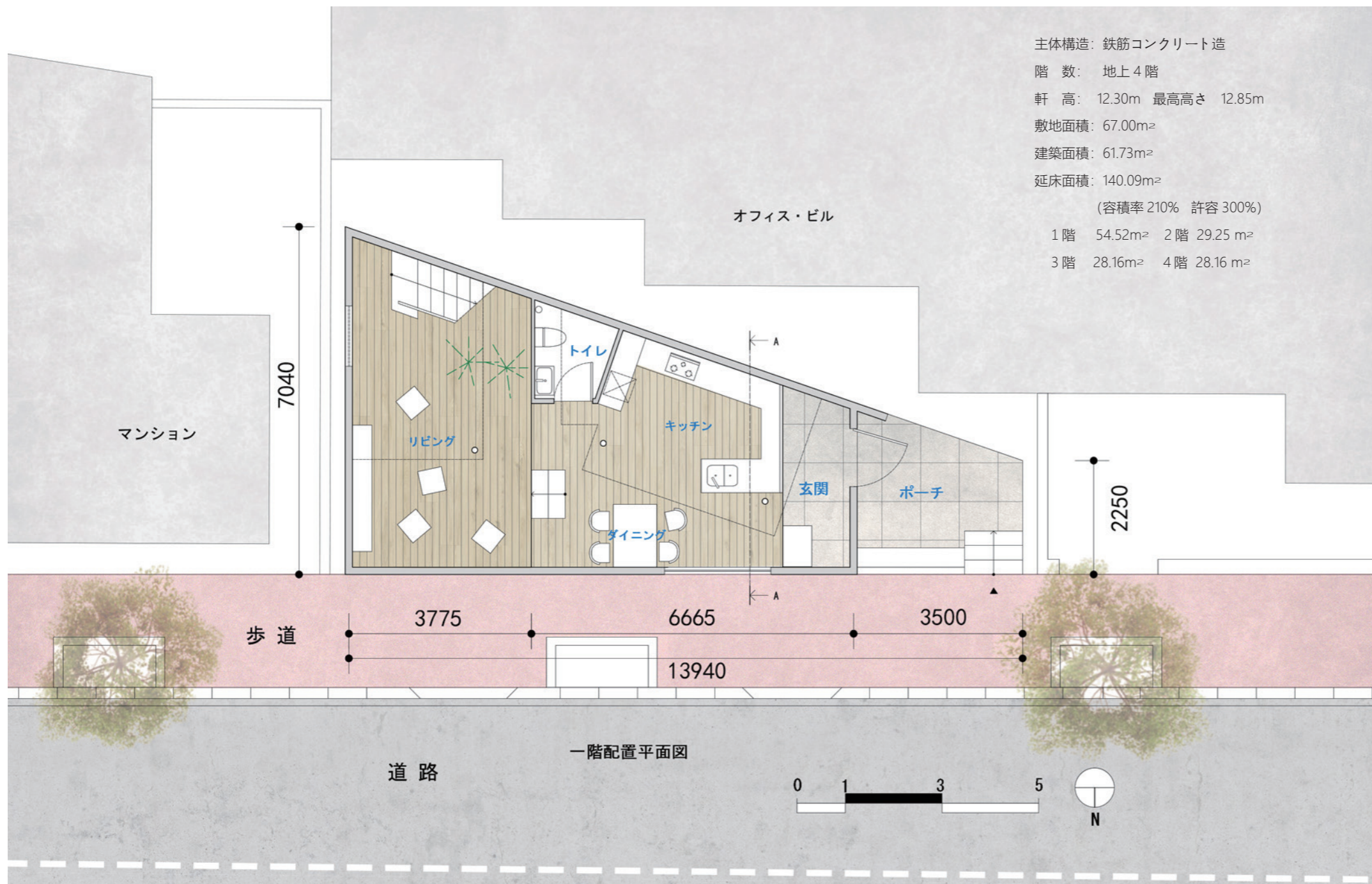
敷地は建築密集地であり、南側のオフィスビルと東側のマンションに囲まれた形地。南側と東側と西側の建物は、全部で敷地境界線に接するほど計画地に迫って、採光条件が厳しい。北側の天空光は、計画地に光をもたらす数少ない資源である。

## ■ コンセプト

① 敷地の北側に電車が毎日通っており、電車の騒音を解決するため、二重サッシの構造から発想し、二重ボックス宅を提案した。二重サッシの構造には二重ガラスがあり、中には空気層があるので、良好な遮音効果がある。したがって、部屋の中にもう一つの部屋を設け、二重ボックスの空間が作られた。内部のボックスには二つ寝室を配置した。

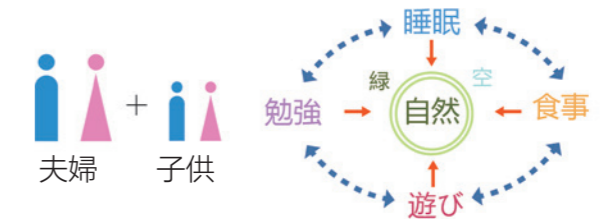


② 家の中において自然に感じられるため、敷地の周りの自然要素を活かし、水平方向と垂直方向に緑と光を取り込む。まず水平方向の緑の風景を内部に導き、北側に向けて開いた窓を設け、一方で垂直方向は天空光を導入し、大面積の天窗を設ける。



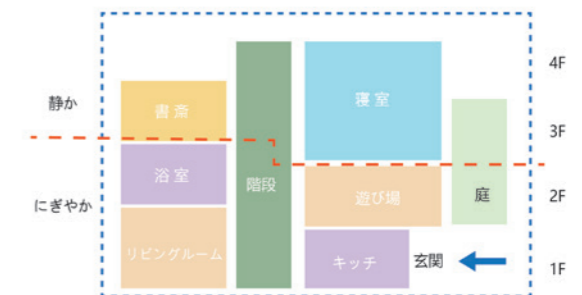
## ■ 家族構成

家族構成は夫婦と二つ子供であった。この家において寝るや食べるや遊ぶや勉強するなどの行為を行っている。それらの行為と自然を繋がれば、精神的に健康・快適な家を作り出せる。



## ■ 空間配置

これは4階建ての家だが、静かな寝室と書斎が上部に配置され、開放的なリビングとダイニングと遊び場は下部に配置された。中部に階段が各空間につながっている。



## ■ 模型写真



二階の遊び場方向を見る。床のレベルが違うため、変化の空間を生み出している。



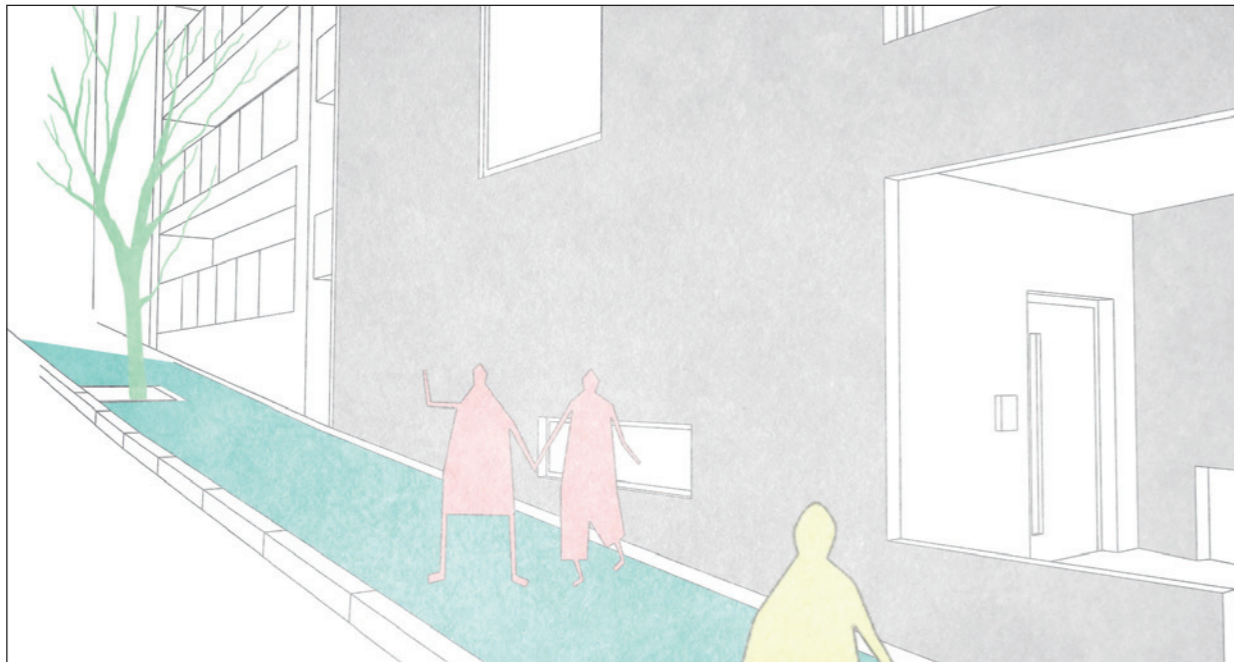
二階西側にテラスを配置し、テラスに植栽を置く。自然と交流される場所を作り出した。



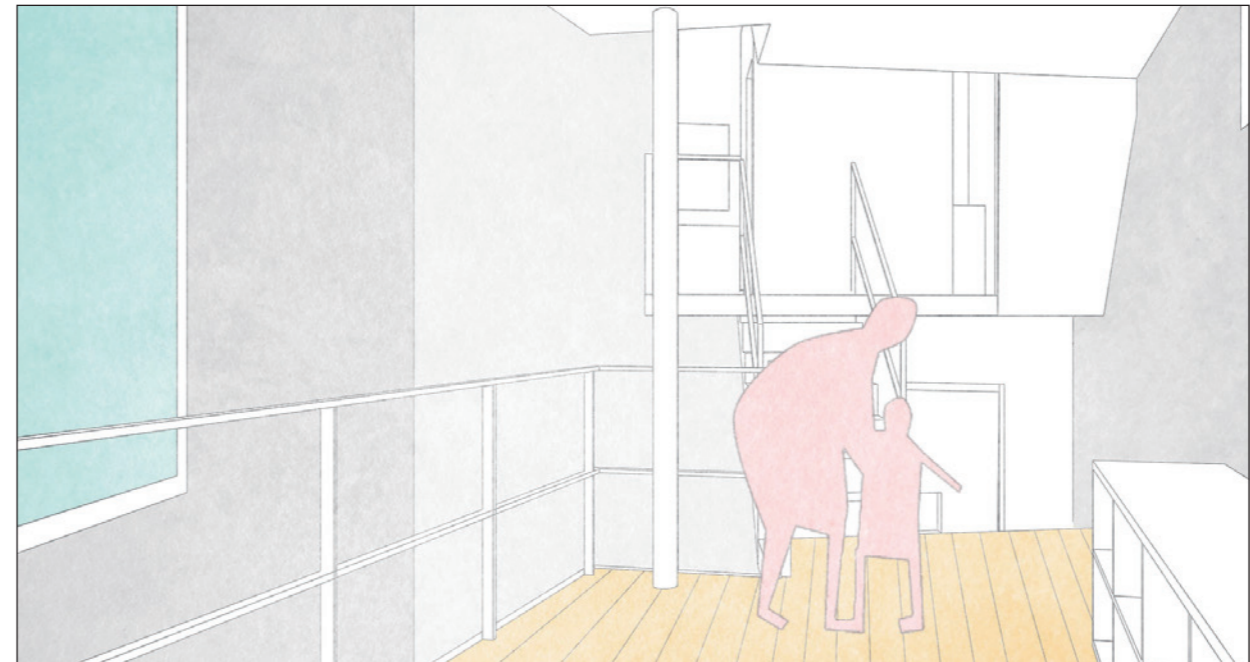
電車のレベルから住宅の方向を見る。3階寝室から二重窓を介して外の風景が見える。



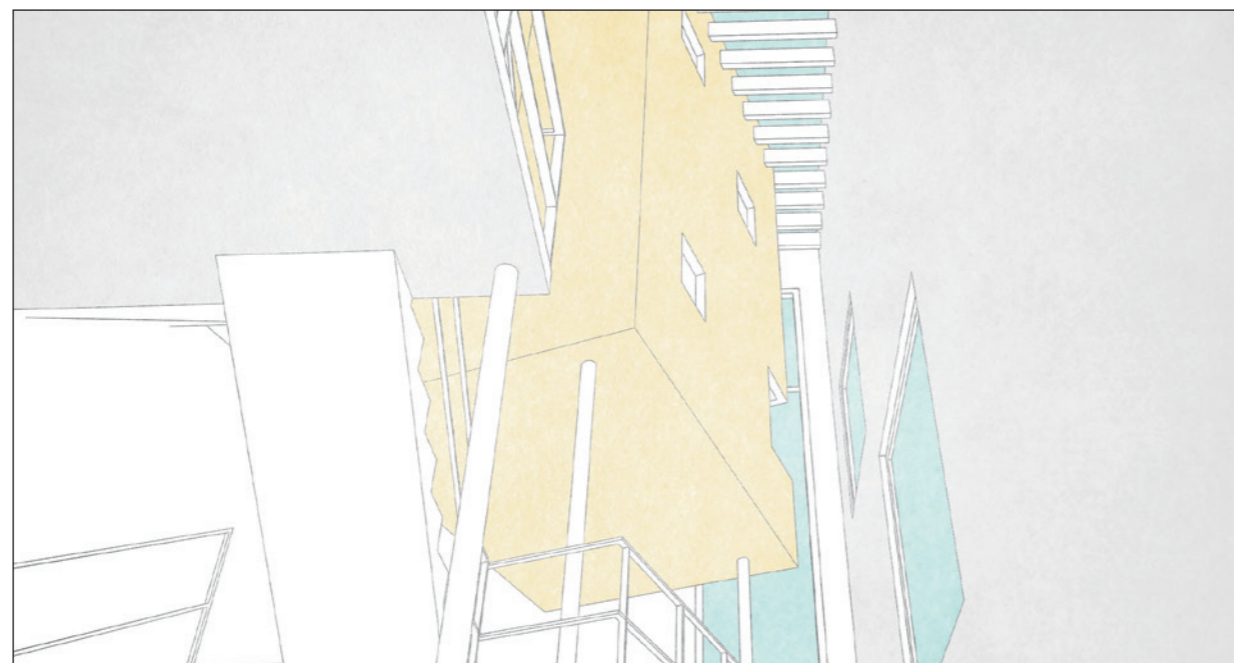
構造はコンクリート造とし、内部は一階から天井まで四階吹抜けの大きな空間と、開放的なテラスなる2階、ふたつボックスの寝室と書斎で構成する立体的なウエルームとした。内部9m吹抜けを設け、吹抜けの天井のガラスを通して一階にも天空光をとどけられる。吹き抜けの上の屋根はガラスがあり、一階から空が見え、半室内空間を作り出す。一階の床は敷地の勾配に沿って徐々に上げる。



地窓によって歩道に外部者は室内をみにくく、プライベートの生活を守る



二階の遊び場から窓を介して外の景色が見える



天空光は天窓を通じて吹抜に取り込む

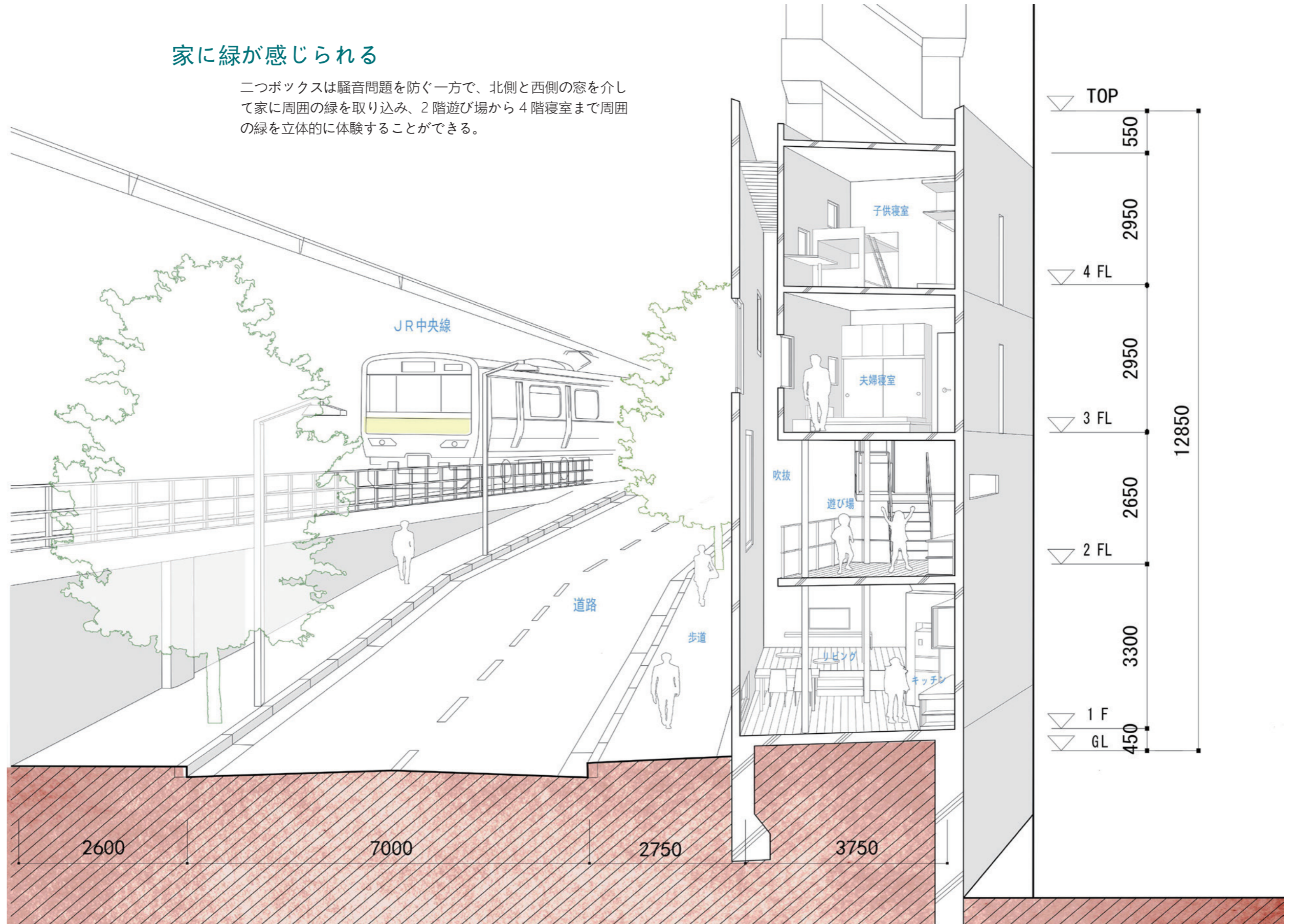


キッチンとダイニングとリビングは一体になって、開放感を感じる



## 家に緑が感じられる

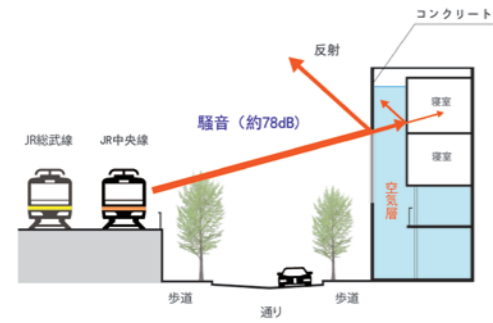
二つボックスは騒音問題を防ぐ一方で、北側と西側の窓を介して家に周囲の緑を取り込み、2階遊び場から4階寝室まで周囲の緑を立体的に体験することができる。



A-B 断面パース

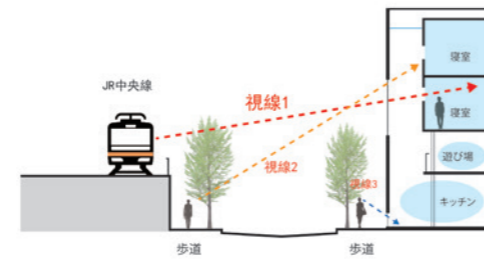
## ■ 建築分析

### ① 騒音分析



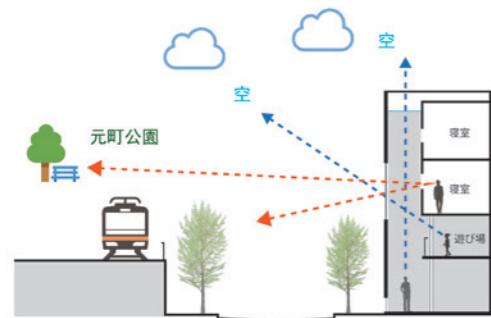
二重ボックスの間に空気層がある。騒音は二重コンクリートの壁を通り、騒音の音量が減った。したがって、寝室の静かさを保証できる。

### ② 視線分析



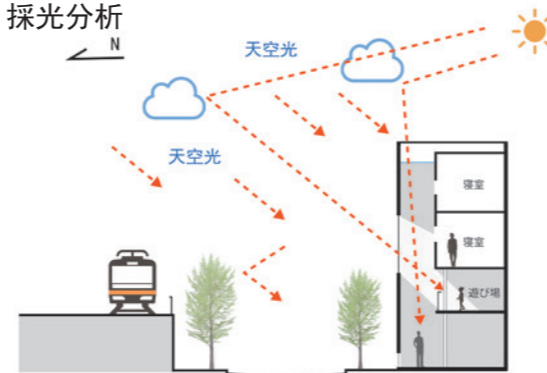
住宅の北側は道路と電車線に臨んでいる。電車と歩道から人の視線は二重窓を通し、寝室にはつきり見えないので、寝室のプライバシーを保つ。

### ③ 景色分析



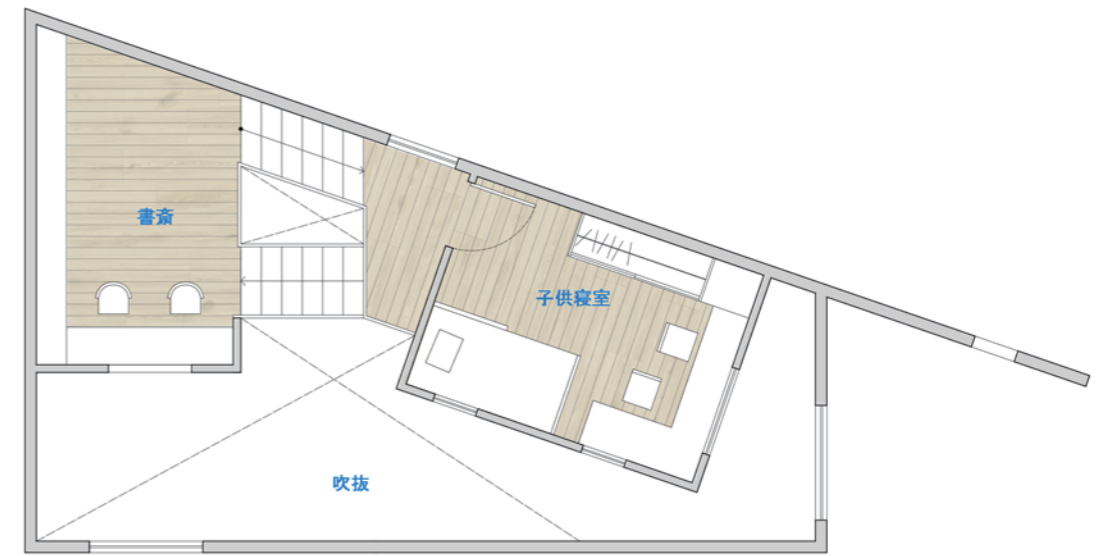
建物の周辺には豊かな緑化があり、その緑化を活かす。北側の窓を介して二、三階から遠くの元町公園の緑が見える。また、西側の窓を通して街路樹もみえる。

### ④ 採光分析



敷地の南側は建築密集地であるため、北側の天空光を生かし、北側の壁に窓を設けて一階に光を取り込む。北側の窓からは常に室内へ光が注がれ、安定した室内環境をつくる。

## ■ 平面計画



四階平面図 S=1: 100



二階平面図 S=1: 100



三階平面図 S=1: 100



北立面图 1/100

北立面图 S=1:100



西立面图 S=1:100

# 伸びた縁側

民家を再生したライブラリー



今回の課題のテーマはリノベーションであった。敷地は三重県松阪市の美しい町であり、2階建ての木造民家がリノベーションのターゲットだ。合理的な改修を通じて、ライブラリーとカフェの新しい機能を加え、古い家を新生させ、人々に交流と休憩の空間を提供できる。ここがみんなの好きな場所になって、段々に衰えていく町に活力をもたらすことを望んでいる。

敷地：三重県松坂市嬉野中川町

名古屋  
松坂市  
伊勢神宮  
鳥羽市

80km  
10km  
33km  
44km

近鉄名古屋線 1h  
近鉄山田線 0.5h

配置図 S=1:2000

大阪・京都方面

名古屋方面

①中村川  
210m

②中川公民館  
180m

敷地

③伊勢中川駅  
500m



① 中村川



② 中川公民館



③ 伊勢中川駅

## 敷地調査

今回の敷地は三重県松阪市の美しい町であった。敷地の周辺に実地調査を行ったが、ここにはスーパーやカフェやクリーニングや郵便局や公民館などのサービス施設があり、生活が便利だと同時に、この町の小さなサービスセンターになり、多くの市民がここに来た。車でここに来た利用者は駐車場を利用することもできる。周辺には幼稚園や中学校もあり、これらの学生さんや市民がライブラリーの利用者となる可能性もある。

敷地は大きく庭園ある民家にあり、入口は2つあり、それぞれ2つの道が接続されている。また県道24号に隣接しており、伊勢中川駅から徒歩5分程度で、徒歩でも車でも利用者にとって便利である。



⑤ 旧初瀬街道



⑥ 北大路眼科



⑦ カフェ



① 嬉野中川郵便局



② FamilyMart



③ ココカラファイン

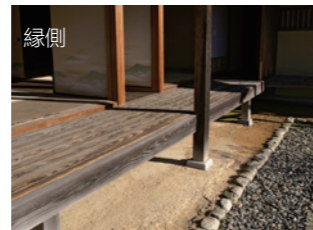


④ 松阪市立中川小学校



⑧ 駐車場

## ■ コンセプト



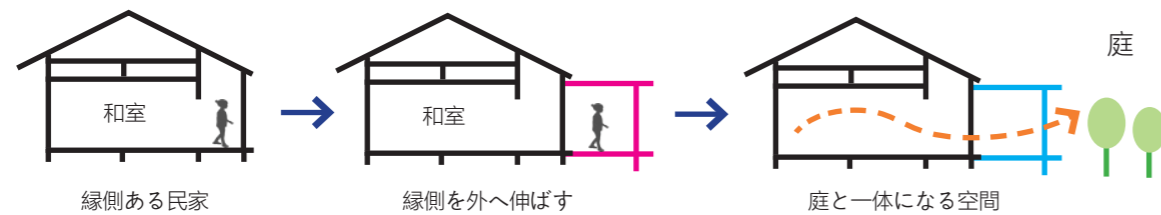
縁側



枯山水

### 提案 1

皆さんご存知通り縁側は日本の伝統的な木造住宅の独特なものだが、極めてよい半屋外空間なので、多くの家庭の活動がここで発生することができた。縁側は民家の中ではプライベートな空間であり、民家を小型図書館に改造すれば、より多くの公共空間が必要だと考え、縁側を拡大するアイデアを提案した。建物の南側の外側には屋根付きの縁側が設け、より多くの交流と休憩の空間が作られている。したがって、伸びた縁側によって室内の空間と庭の緑化を一体化させ、快適な読書環境を作り出した。



### 提案 2

敷地の外部空間を改造し、敷地の中に2つの仮の建物があり、まずはこの2つの建物を左へ移動した。それで、民家の南側には大きな空間が作られている。元々敷地内には松などの木があり、それをこのままで活用して庭に枯山水や芝生を配置し、日本っぽい感じの美しい室外環境を作り出した。さらに敷地内の緑化を町の一部とし、外の道からも院内緑化の存在を感じることができる。



## ■ 民家の現状

下の写真通りに既存の民家は2階建ての木造で、約40年ほどの房齡であった。さらに室内と構造体は完璧に保存されており、寝室とリビングの床には畳があった。今回の提案は、既存の木造と屋根をできるだけ大きく変えずにそのまま再利用することで、リノベーションのコストを節約できる。



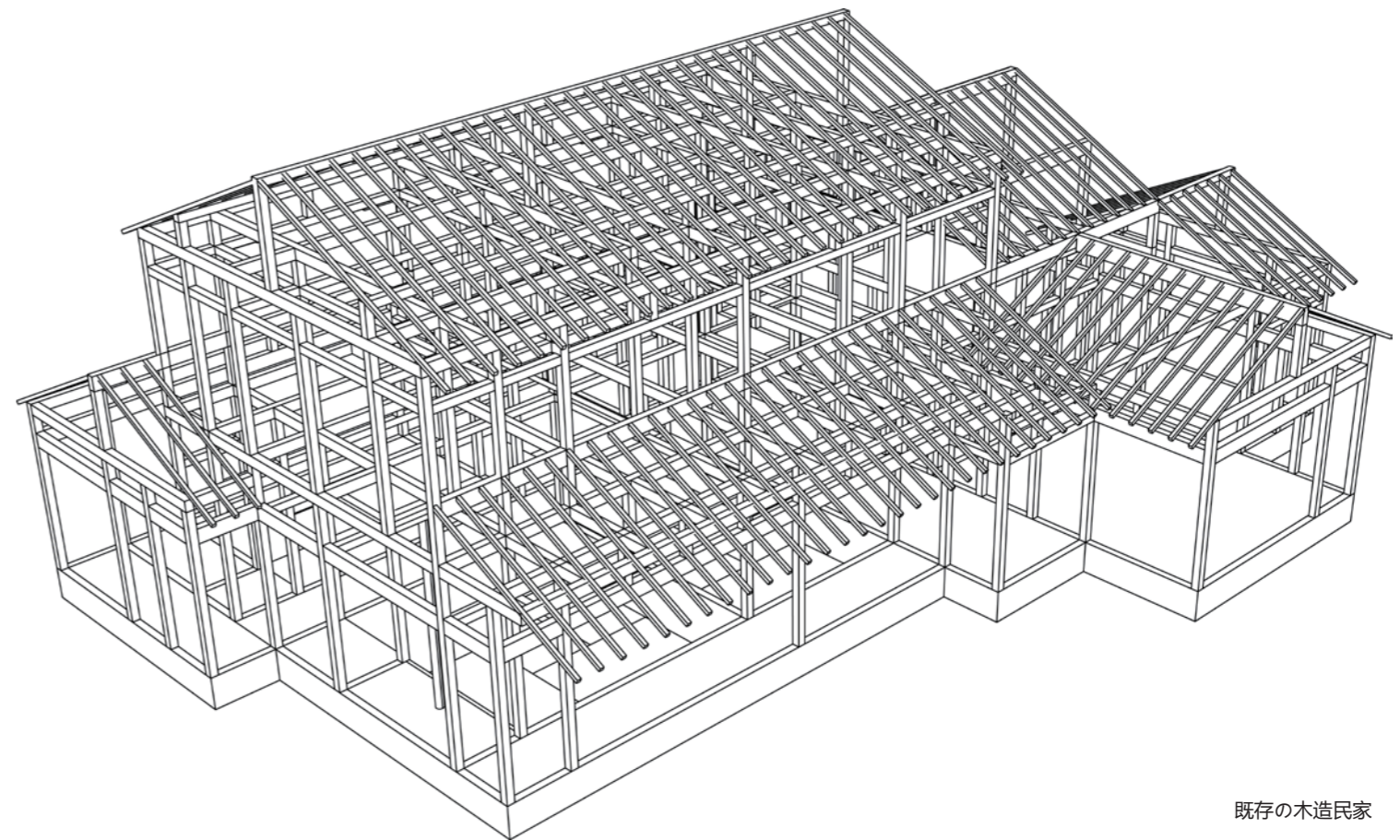
入口



東側立面

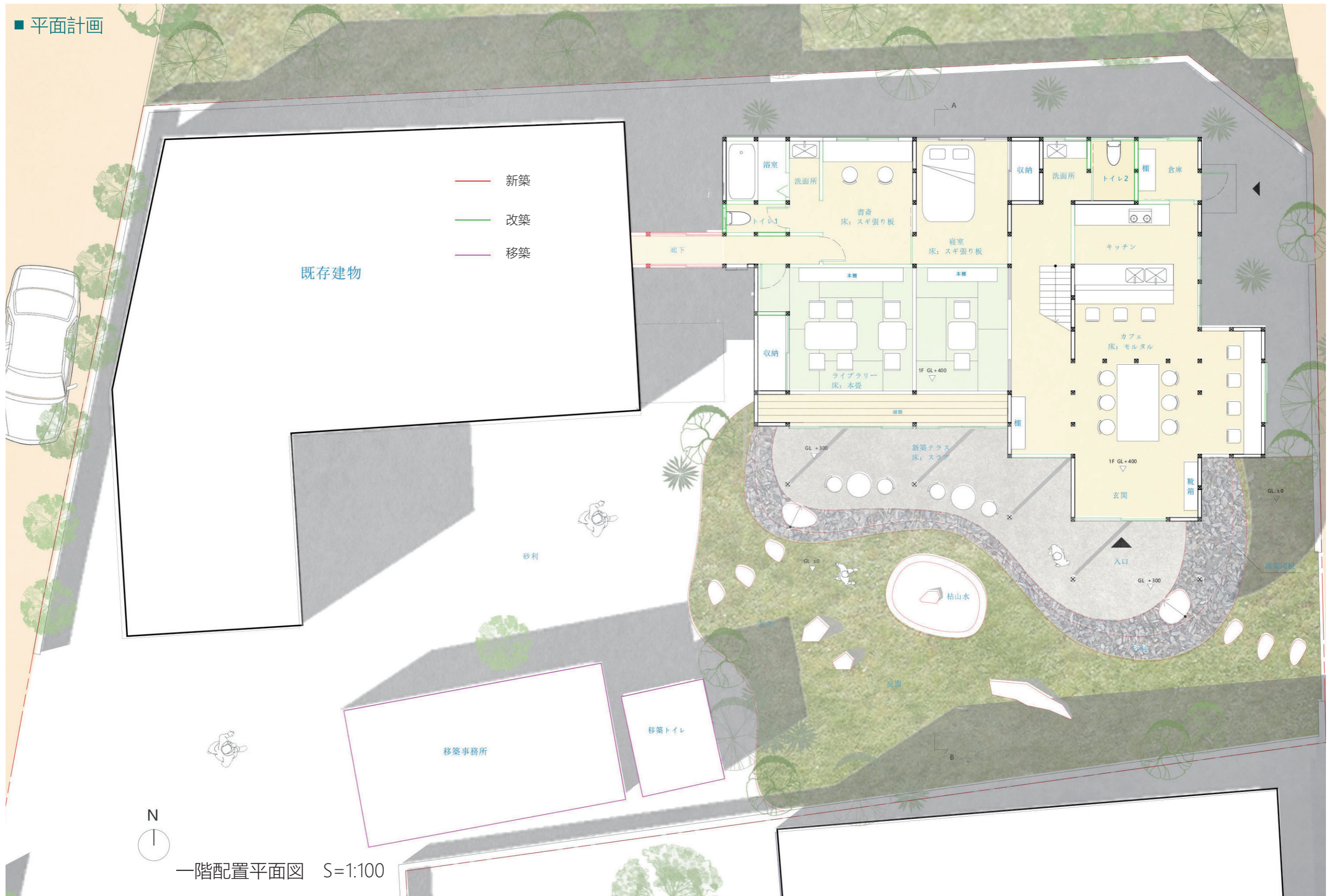


北側立面



既存の木造民家

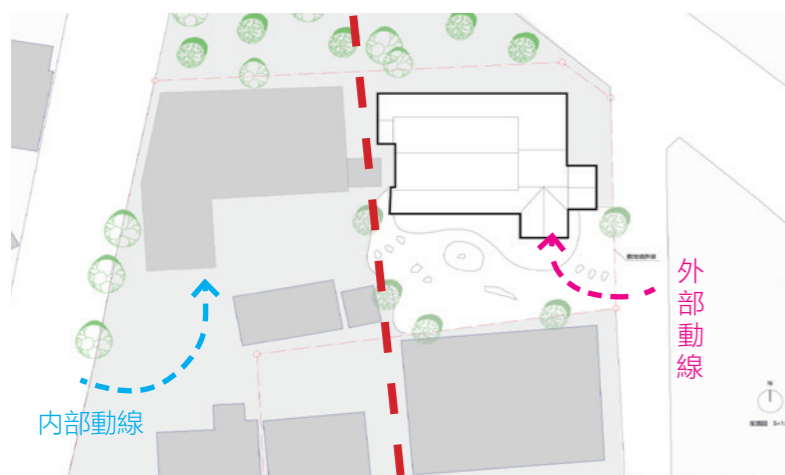
■ 平面計画



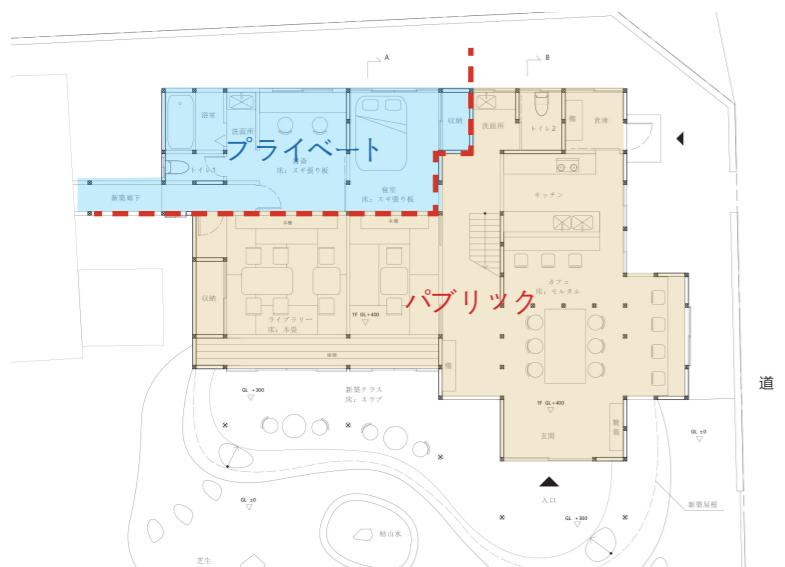


## ■ プライベートとパブリック

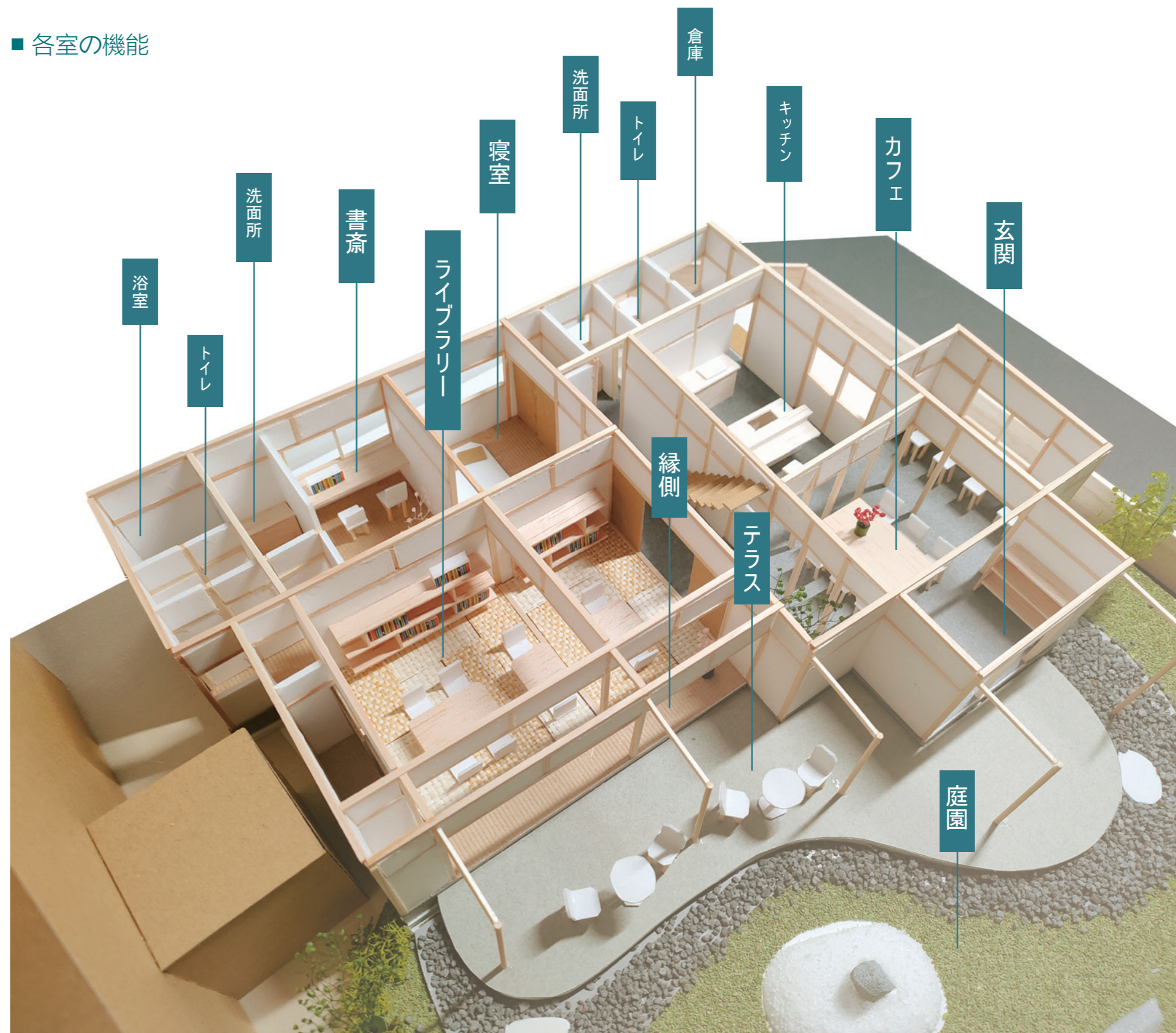
現在、敷地内に入口には東西2つがあり、大家の生活空間を外部利用者の影響を受けないように、外部動線と内部動線を明確に分ける。大家の家族は西の入口から入り、外部利用者は東の入口からライブラリーに入る。



一階のライブラリーとカフェは主に外部利用者向けである。北の部屋は主人の娘として休暇の時に利用できる。大家の家族はライブラリーなどのパブリックを通らずに、新築連絡廊下から部屋に入ることができる。平面計画ではプライベートエリアとパブリックエリアが分かれており、両者の影響をできるだけ減らす。



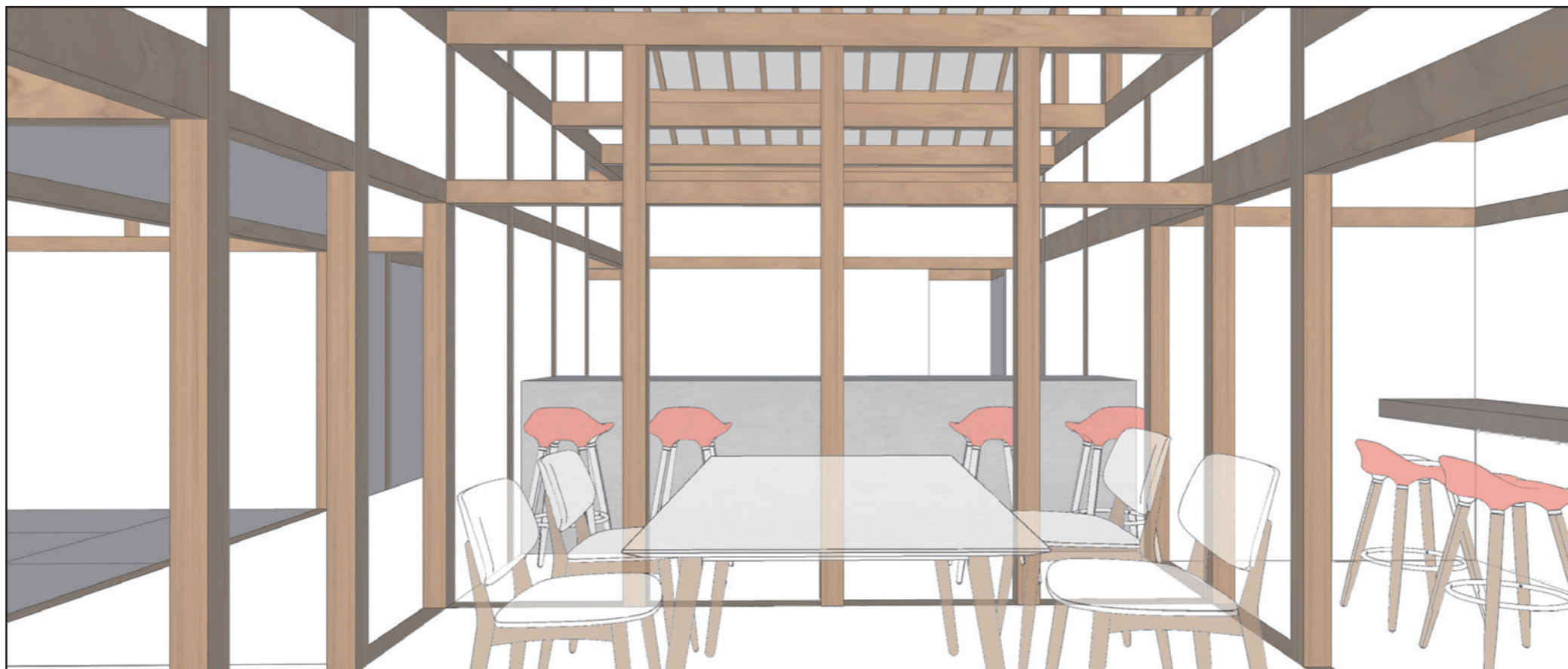
## ■ 各室の機能



一階模型



ライブラリー内観パース。元々の畳を活用したことによって和風の空間を作り出した。



カフェ内観パース。元々の天井を外したことによって木造の美しさを感じられる。

■ 模型写真



縁側の上に新築の屋根と元々の屋根に調和できる



庭から縁側へ見る。庭と一体になる半室内空間



道に入口から奥の庭が見える



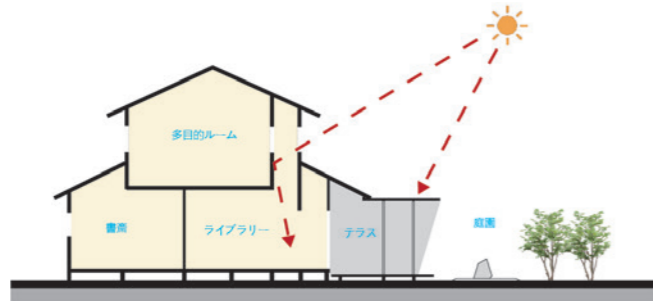
二階に可動テーブルを設けた



一階ライブラリーに元々の畳を活用した

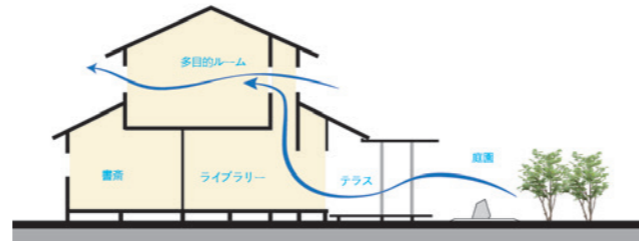
## ■ ダイアグラム

①日照分析



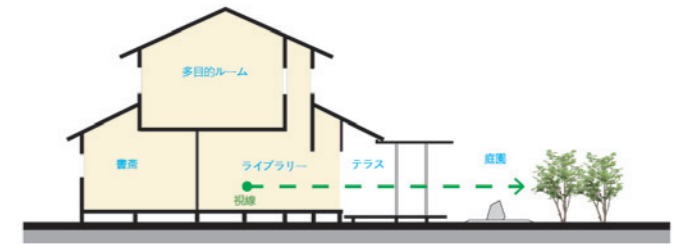
新築の屋根による影の半室内空間

②通風分析

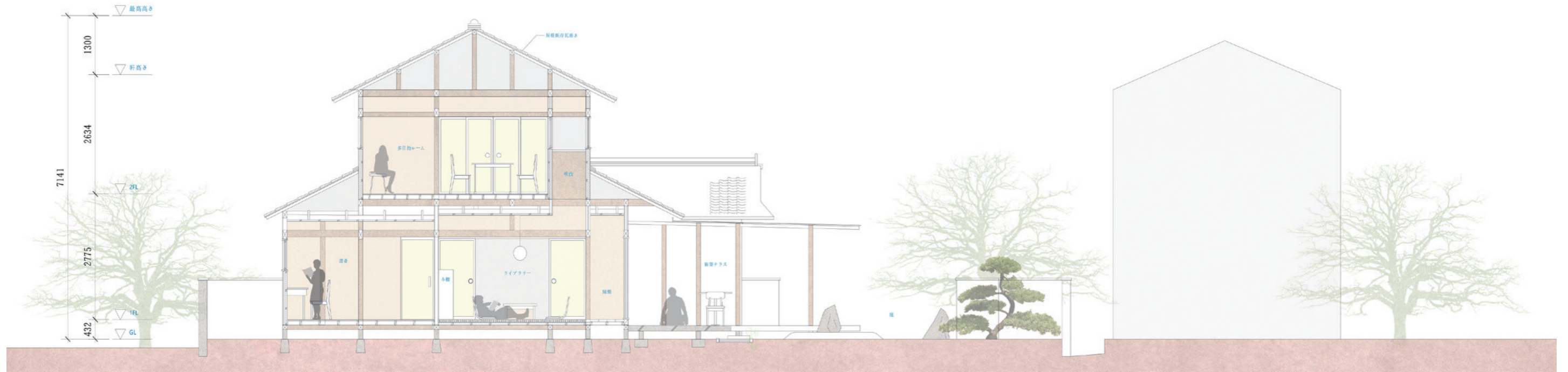


格子窓が開くと庭の風が室内に入ることができる

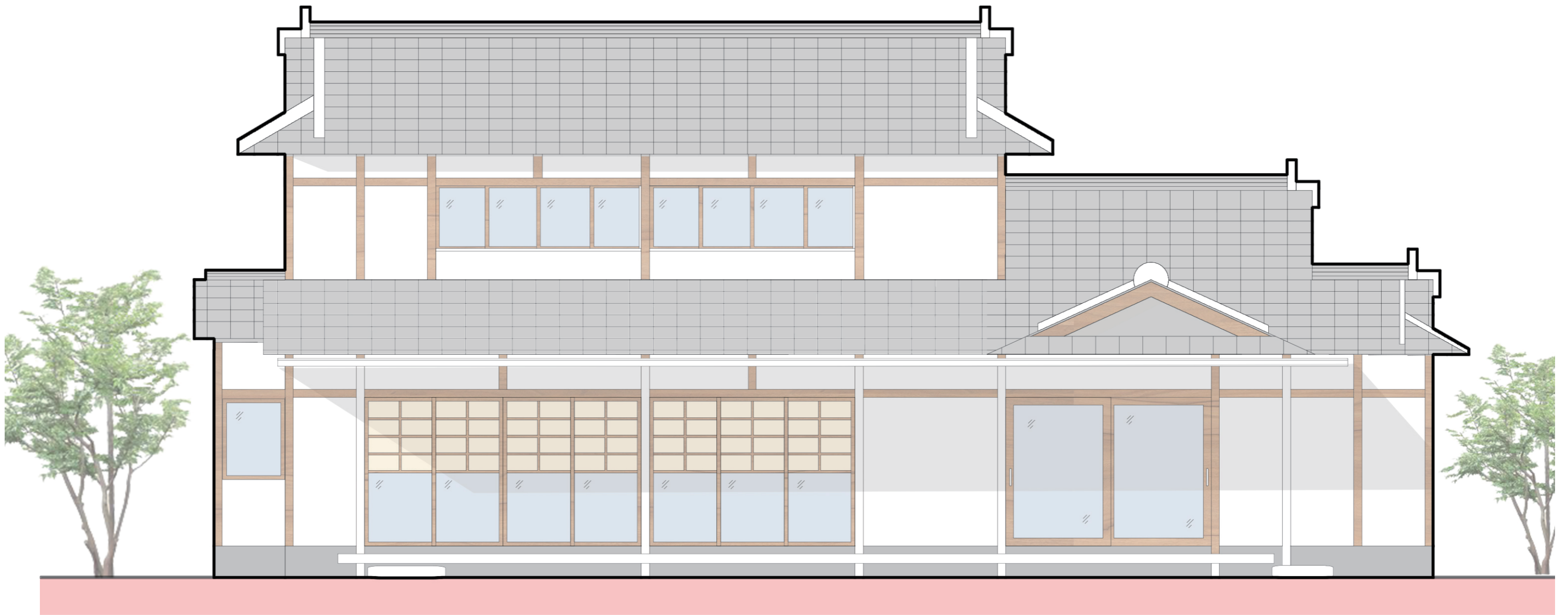
③視線分析



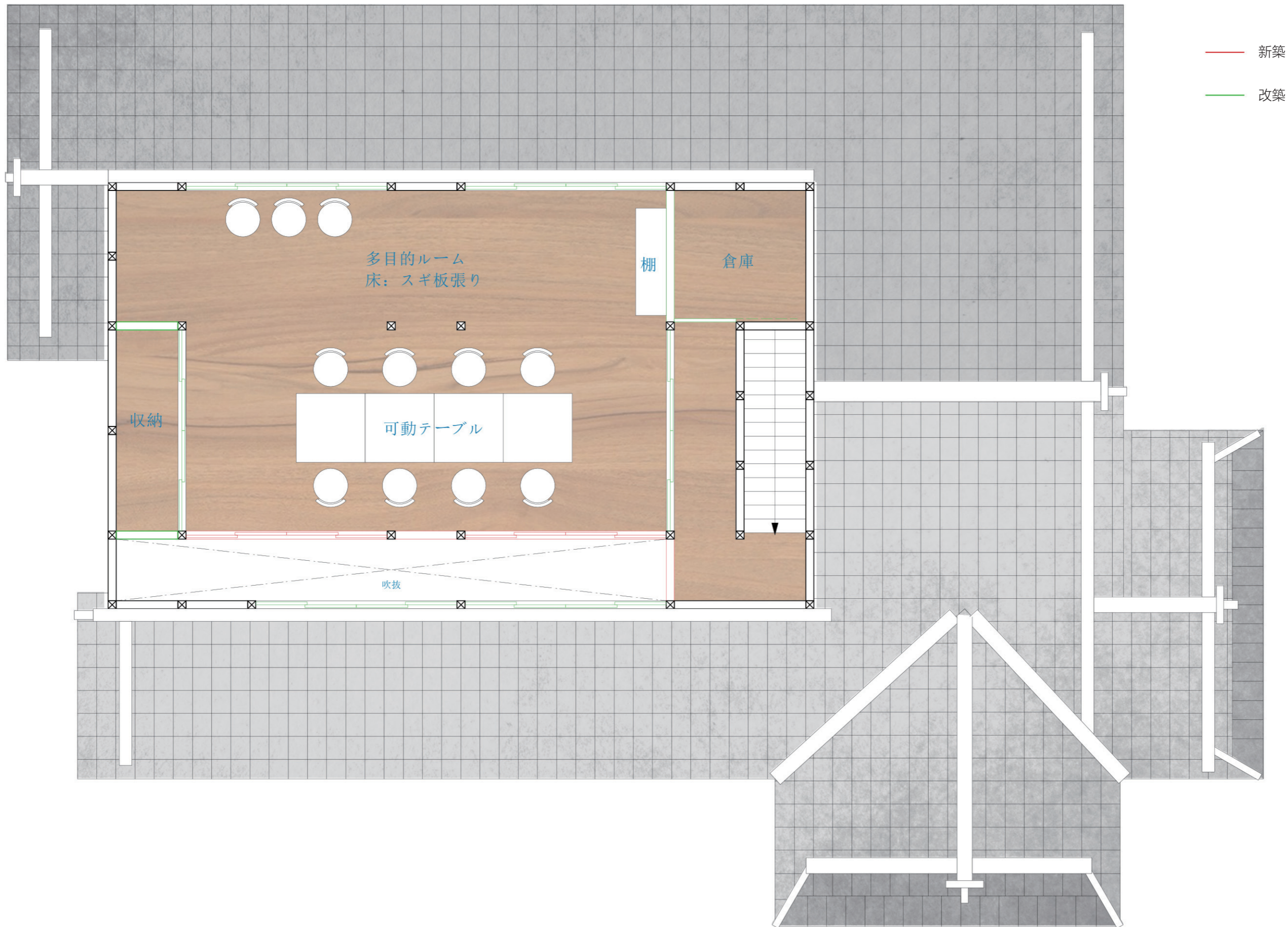
ライブラリーに座ると屋外の美しい庭が感じられる



A-B 断面図 S=1:100



南立面图 S=1:50



二階平面図 S=1:50